

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	(福) 埼玉のぞみの園 生活支援サービスのぞみ			
○保護者評価実施期間	2025年 3月1日 ～ 2025年 3月 22日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 22日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 29日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用者1人ひとりの特性に配慮した、個別化された支援が行えるよう努めている。	ご利用者の状態に合わせた個別スケジュールの作成、実施。 障害特性に配慮した少人数グループでの活動。 障害特性に配慮し、使用する部屋を分けたり、状況に応じてパーティション等を使用している。	少人数グループでの活動の充実。 支援員の研修参加（強度行動障害への理解・知識等を深める）。また、会議等で研修報告し全職員が知識を共有し合えるよう努めていく。
2	法人内での繋がり。	放デイご利用者が法人内の作業所での実習の際は情報提供を必ず行っている。 また、実習期間には見学に行き作業所支援員と情報交換をしたり、作業所での反省点を活かして自立課題に落とし込みデイでも訓練出来るようにしている。	法人内のイベント等に参加し、デイのご利用者の様子を知ってもらう。 法人内にとどまらず、様々な施設と繋がりを持つ。
3	支援プログラムの充実。	日替わりでメニューを提供し、固定化されないように気を付けている。 個々の特性に応じた自立課題の提供を行っている。 季節に応じたイベントを開催している。	研修等へ参加し、一つひとつのメニューの更なる充実を図る（音楽・運動等）。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもと接する機会がない、保護者会等の開催がない。	障害特性上集団行動が苦手なご利用者が多く、地域のお子さんと接する機会を設けにくい。 本人支援に重点を置いており、地域支援や地域連携に対する知識・情報収集不足がある。 保護者から希望しない、という声もある。	まずは、同じ放デイ間での交流から始め、少しずつ地域の子ともとも触れ合える機会を提供出来るように計画する。
2	職員数が少ないと思われる時がある。	本事業所の特徴として、比較的障害が重いご利用者が多く、支援量が多い。 ご利用者2名：職員1名の割合で配置出来るよう努めているが、職員の急な休み等が入ると、どうしても少なくなってしまう時がある。	基本ご利用者2名：職員1名で配置出来るよう、安定した職員の雇用。 長期休暇等は学生のアルバイトやボランティアの参加を募り、より手厚く配置出来るようにする。
3	非常時の対応。	非常時の対応、BCP等の策定は行っているが、保護者・職員への周知が不十分な所がある。 発信力が弱い面もあり、全体に情報が行き届いていない。	職員に対しては会議等での周知、施設内に掲示する等行う。 保護者へは非常時の対応マニュアルの配布、HP掲載、またSNSを活用した情報開示を検討する。